
2023さくら道国際ネイチャーラン

掲 載 紙 面

中 日 新 聞 社

さくら道ランへ運営方法確認
ボランティア
白鳥で合同会議
名古屋から金沢まで百
五十キロを走り抜く「2022
さくら道国際ネイチャーラン」(実行委員会主催)
郡市、中日新聞社他
に向けた運営委員会がボラ
ンティアの代表者
会議が十四日夜、郡市白
鳥町の市白鳥振興事務所で
開かれた。石川県など
からボランティアの代表者
約五十人が出席。小森伊
津男運営委員長のあいさつ
大会に商ひて開かれた会場で
からボランティアの代表者
約五十人が出席。小森伊
津男運営委員長のあいさつ

さくら道ランへ運営方法確認
ボランティア
白鳥で合同会議
名古屋から金沢まで百
五十キロを走り抜く「2022
さくら道国際ネイチャーラン」(実行委員会主催)
郡市、中日新聞社他
に向けた運営委員会がボラ
ンティアの代表者
会議が十四日夜、郡市白
鳥町の市白鳥振興事務所で
開かれた。石川県など
からボランティアの代表者
約五十人が出席。小森伊
津男運営委員長のあいさつ
大会に商ひて開かれた会場で
からボランティアの代表者
約五十人が出席。小森伊
津男運営委員長のあいさつ

さくら道ランへ運営方法確認
ボランティア
白鳥で合同会議
名古屋から金沢まで百
五十キロを走り抜く「2022
さくら道国際ネイチャーラン」(実行委員会主催)
郡市、中日新聞社他
に向けた運営委員会がボラ
ンティアの代表者
会議が十四日夜、郡市白
鳥町の市白鳥振興事務所で
開かれた。石川県など
からボランティアの代表者
約五十人が出席。小森伊
津男運営委員長のあいさつ
大会に商ひて開かれた会場で
からボランティアの代表者
約五十人が出席。小森伊
津男運営委員長のあいさつ

2023.4.15 中日新聞 岐阜総合版

太平洋と日本海を桜でつなぐ

22日前5から順次スター
ト。制限時間は36時間。80人
が参加。コースは名古屋城
(名古屋市) - 愛知県稻沢市
- 同県宮町 - 岐阜県笠松町
- 岐阜市 - 同県郡上市 - 白川郷
(同県白川村) - 富山県南砺市
- 同県郡上市 - 白川郷

さくら道国際ネイチャーラン

市兼六園(金沢市の約2
50%)。先頭ランナーは23日
前4:30(ゴール予定)
問い合わせ 大会事務局 0575(82)3111。
ホームページは「ネイチャーラ
ン」で検索。

共催 岐阜県郡上市
中日新聞社

2023.4.18 中日新聞 第二社会面

太平洋と日本海を桜でつなぐ

22日前5から順次スター
ト。制限時間は36時間。80人
が参加。コースは名古屋城
(名古屋市) - 愛知県稻沢市
- 同県宮町 - 岐阜県笠松町
- 岐阜市 - 同県郡上市 - 白川郷
(同県白川村) - 富山県南砺市
- 同県郡上市 - 白川郷

さくら道国際ネイチャーラン

市兼六園(金沢市の約2
50%)。先頭ランナーは23日
前4:30(ゴール予定)
問い合わせ 大会事務局 0575(82)3111。
ホームページは「ネイチャーラ
ン」で検索。

共催 岐阜県郡上市
中日新聞社

2023.4.18 中日スポーツ
五面広告

太平洋と日本海を桜でつなぐ

22日前5から順次スター
ト。制限時間は36時間。80人
が参加。コースは名古屋城
(名古屋市) - 愛知県稻沢市
- 同県宮町 - 岐阜県笠松町
- 岐阜市 - 同県郡上市 - 白川郷
(同県白川村) - 富山県南砺市
- 同県郡上市 - 白川郷

さくら道国際ネイチャーラン

市兼六園(金沢市の約2
50%)。先頭ランナーは23日
前4:30(ゴール予定)
問い合わせ 大会事務局 0575(82)3111。
ホームページは「ネイチャーラ
ン」で検索。

共催 岐阜県郡上市
中日新聞社

2023.4.18 北陸中日新聞
第二社会面



名古屋城正門前から金沢市を目指してスタートするランナーたち=22午前5時12分、名古屋市中区

さくら道ラン4年ぶり号砲

名古屋城から金沢市の兼六園までの「一百五十キロ」を走破する「2023さくら道国際ネイチャーラン」(中日新聞社、岐阜県郡上市など共催)は二十二日朝、名古屋城正門で号砲が鳴り、国内外のランナー七十六人が三十六時間以内のゴールを目指して駆け出した。五時のスタートを前に、初出場のシステムエンジニア佐藤勇さん(五二)・那覇市出身は「莊川桜や白川郷の美しい景色を楽しみにしている。冷え込み具合が心配だが、頑張って完走したい」と意気込んだ。

大会は名金線沿いに桜の植樹を続けた元車掌の故佐藤良一さん(郡上市白鳥町出身)をたどる目的で一九九四年に始まり、二十七回となる大会は中止を余儀なくされたとかけた。二十七回目となる大会で中止を余儀なくされたと小委員長は「口ヲ禍」の説明があった。

二十七回目となる大会は、旧国鉄バス名金線(名古屋-金沢)沿いに桜を植え続けた車掌佐藤良一さん(白鳥町出身)の遺志を受け継ぐ。二十一日の開会式に続き、八十のランナーが二十二日早朝、名古屋市の名古屋城を出発。三十六時間以内のゴールを目指し、金沢市の兼六園に向かって走り続ける。沿途には四十五万所のエイドが設けられ、約五百人が開かれた。石川県などからボランティアの代表者約五十人が出席。小森伊津男運営委員長のあいさつ

2023.4.22 中日新聞 夕刊 総合版

満開の勇気 咳かせたい

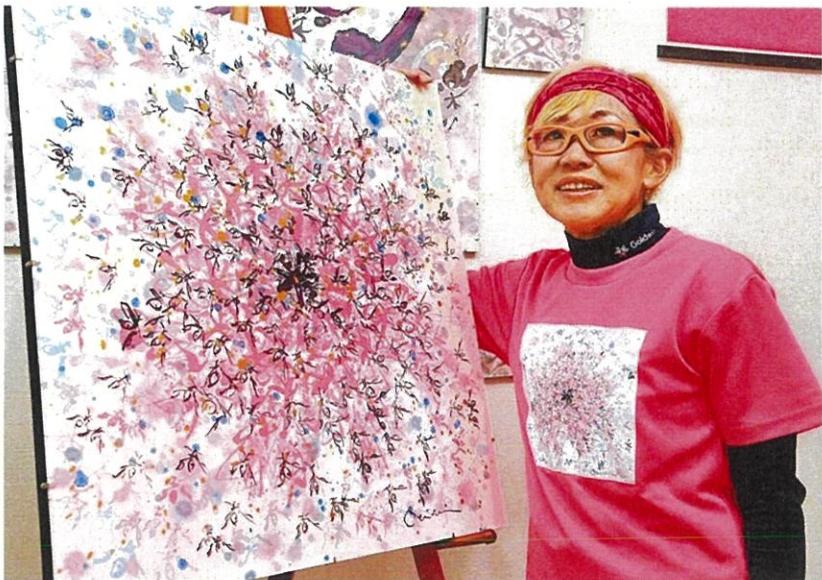
「走る書道家」愛知の波多のさん

ランプラ+



名古屋ー金沢さくら道ラン4年ぶり

「私のさくら道」をテーマに書いた作品の前で、大会への思い
を話す波多の明翠さん＝愛知県沓井市で（中森麻未撮影）



波多のさんは二〇一八年
に青森県ー山口県の千五百
キロを走る「本州縦断
フットレース」に挑み、女
性で初めて完走。百キロを超
えるウルトラマラソンに年
数回出場し、「走る書道家」
として活躍してきた。
さくら道ランは交通規制
の大会趣旨に賛同する想い

波多のさんは二〇一八年
に青森県ー山口県の千五百
キロを走る「本州縦断
フットレース」に挑み、女
性で初めて完走。百キロを超
えるウルトラマラソンに年
数回出場し、「走る書道家」
として活躍してきた。

さくら道ランは交通規制

せず、交通ルールを守って
歩道を走るために、出場選手
は限られる。今回も選考を
通過した四十~七十年代の七
十六人(男性六十七人、女性
九人)が出場予定。選考

では実績に加え、「太平洋」と
日本海を桜でつなぐ」と
の大会趣旨に賛同する想い
も考慮される。

波多のさんが尊敬するラ

ンナーはさくら道の出場者

ばかり。「大会はあこがれ

で、いつか出たいと思って

いた」。五回ほどエントリ

ーしたが、落選か補欠が続

いた。その際は選手に飲食

物を提供するエイドステー

ションでボランティアとし
て参加。終盤の二〇一・八
年地点のトンネル手前(富
山県南砺市)で、急な坂道
をへとへとになって上がり
てくる選手に声援を送っ
た。レース後、これまで
題材にしてきた「葉」の文
字を黒や水色、ピンク色の
墨で書き、桜の花びらを表
現した書の作品「私のさ
くら道」を仕上げた。

一九年に念願の初出場を
果たした。ひるがの分水嶺
(標高八七五㍍)をピーク
に緩やかなアップダウンが
続く中盤、もともと胃が弱
い波多のさんは、途中で気
分が悪くなり嘔吐を繰り返
した。そんな時は「次の工
程にはあの人が待つてい
る」とボランティアで交流
した人の顔を思い浮かべて
記録の更新を目指す。

力走。最終盤には、けがで
出場を断念した人から「ど
うにか完走しよう」と声援
を受け、最後の力を振り絞
った。

「一人の力ではゴールでき

ない。まだ選んでくれてう

れしい」。目標はさくら道ラ

ンに出場し続け、最高齢で

ゴールすることだ。「あ

の年齢ですごい」と勇気を

与えられる存在でありた

い」。まずは四年前の自己

記録の更新を目指す。

2023.4.19 北陸中日新聞 夕刊 第一面

名古屋ー金沢さくら道ラン4年ぶり

満開の勇気 咲かせたい

春日井「走る書道家」波多のさん

ランプラ



「私のさくら道」をテーマに書いた作品の前で、大会への思い
を語る波多の明翠さん（愛知県春日井市）（中森麻未撮影）



さくら道国際ネイチャーランのコース

名古屋ー金沢の二百五十キロを三十六時間以内に走るウルトラマラソン。「2023さくら道国際ネイチャーラン」（岐阜県郡上市、中日新聞社など共催）が二月二十三日、四年ぶりに開催される。「さくら道ランは私にとって特別」。出場選手の一人で、本州縦断走の経験もある書道家、波多の明翠さん（六八）＝愛知県春日井市＝は待ちわびていた大会で、一度目の完走を目指す。

波多のさんは二〇一八年に青森県ー山口県の千五百二十キロを走る「本州縦断フルマラソン」に挑み、女性で初めて完走。百キロを超えるウルトラマラソンに年数回出場し、「走る書道家」として活躍してきた。

さくら道ランは交通規制

せず、交通ルールを守って歩道を走るために、出場選手は限られる。今回は選考を通過した四十一歳代の七十六人（男性六十七人、女性九人）が出場予定。選考

一九年に念願の初出場を果たした。ひるがの分水嶺（標高八七五メートル）をピークに緩やかなアップダウンが続く中盤、もともと胃が弱い波多のさんは、途中で気分が悪くなり嘔吐を繰り返した。そんな時は「次のエイドにはあの人がある」とボランティアで交流した人の顔を思い浮かべて

「一九年に念願の初出場を果たした。ひるがの分水嶺（標高八七五メートル）をピークに緩やかなアップダウンが続く中盤、もともと胃が弱い波多のさんは、途中で気分が悪くなり嘔吐を繰り返した。そんな時は「次のエイドにはあの人がある」とボランティアで交流した人の顔を思い浮かべて

「私のさくら道」をテーマに書いた作品の前で、大会への思いを語る波多の明翠さん（愛知県春日井市）（中森麻未撮影）

も考慮される。

力走。最終盤には、けがで

出場を断念した人から「どうにか完走しよう」と声援

したが、落選か補欠が続いた。その際は選手に飲食を提供するエイドステーションでボランティアとして参加。終盤の二二〇一・八

キ地点のトンネル手前（富山県南砺市）で、急な坂道をへとへとになって上がりてくる選手に声援を送った。

「一人の力ではゴールできぬが、一緒に走っている人がいるから」。レース後、これまで

題材にしてきた「樂の文墨で書き、桜の花びらを表す

現した書の作品「私のさく

ら道」を仕上げた。

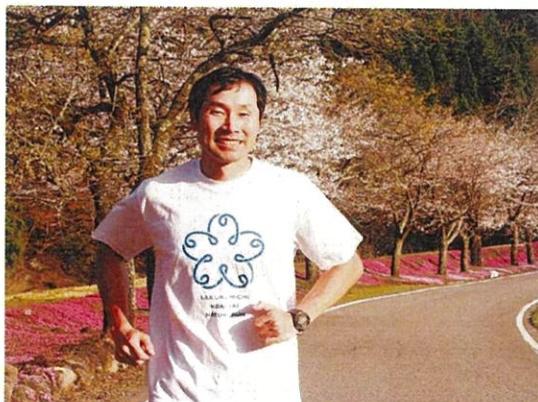
あこがれの大会はコロナ禍で久しぶりの開催とな

り、「まだ選んでくれてうれしい」。目標はさくら道ランに出場し続け、最高齢でゴールすることだ。「あの年齢ですごい」と勇気を与えられる存在でありたい。まずは四年前の自己記録の更新を目指す。

さくら道国際ネイチャーラン（太平洋と日本海を結ぶ旧国鉄バス名金線（名古屋ー金沢）の沿道に桜の苗木を植え続けたバス車掌佐藤良二さん＝岐阜県郡上市白鳥町出身＝の遺志を継いだマラソン大会。佐藤さんは多くの人に笑顔になつてもらおうと、私費を投じて沿道に約200本の桜の苗木を植えた。体調を崩し、闘病中も活動を続け、一九七七年に47歳で亡くなった。94年に第1回があり、今回で27回目。スタートの名古屋城から国道22号や156号を北上するコースで、愛知・岐阜・富山・石川の4県を夜通し走る。ゴールは金沢市の兼六園。

初の裏方役「仲間のために」

郡上・白鳥の日置さん



ネイチャーラン出場を断念した日置さん。それでもランニングは欠かさない=郡上市白鳥町で

中学校で長距離走を始めた日置さんにどうって、走るたびに走る

は待った晴れ舞台。あえて出場を取りやめた日置さんは「今回だけは大切な仲間のために働きたい」と

名古屋から金沢まで「百五十キロ」を走破する「さくら道国際ネイチャーラン」に十回連続で出場した自営業日置和徳さん(四三)=郡上市白鳥町=が、二十一日に開幕する大会で初めてのボランティアを志願した。大会はコロナ禍で三年連続中止され、ランナーにとっては待ちに待った晴れ舞台。あえて出場を取りやめた日置さんは「今回だけは大切な仲間のために働きたい」と

ことは生活の一部だ。ネイチャーランは十回とも完走し、約百三十人が出場した。地元ランナーに入賞した。地元ランナーであることから、大会の実務を担つ運営委員会にも参加している。大会は体力と精神力の限界に挑む。「最初に参加した大会は一ヶ月も疲れが残り、心肺機能まで低下した」と日置さん。一晩中、その後はコースを名古屋―郡上間百五十キロに短縮したり、参加者数を減らす案が検討されたが、長引くコロナ禍

しかし、二〇年の大会は新型コロナウィルスの感染拡大のため中止が決定。その後はコースを名古屋―郡上間百五十キロに短縮したり、参加者数を減らす案が検討されたが、長引くコロナ禍

たまらず、出場を楽しみにしている人たちに申し訳なかつた」と振り返る。

大会は、体力と精神力の限界に挑む。「最初に参加した大会は一ヶ月も疲れが残り、心肺機能まで低下した」と日置さん。一晩中、

雪に見舞われたところもある。ぎりぎりの苦しい状況

たたずみで、旧国鉄バス名金線沿線の愛知、岐阜、富山、石川の四県にまたがる。午前五時のスタート前に、初

出場のシステムエンジニア佐藤勇さん(五二)=那覇市=は「莊川桜や白川郷の美しい景色を楽しみにしてい

た。新規感染者数は約九百人で、旧国鉄バス名金線沿線の愛知、岐阜、富山、石川の四県にまたがる。午前五時のスタート前に、初

出場のシステムエンジニア佐藤勇さん(五二)=那覇市=は「莊川桜や白川郷の美しい景色を楽しみにしてい

た。新規感染者数は約九百人で、旧国鉄バス名金線沿線の愛知、岐阜、富山、石川の四県にまたがる。午前五時のスタート前に、初

出場のシステムエンジニア佐藤勇さん(五二)=那覇市=は「莊川桜や白川郷の美しい景色を楽しみにしてい

4年ぶり「さくら道ラン」22日号砲

で復活は果たせなかった。

自分もランナーの一員な

のに、一番大切にしてきた

ネイチャーランが目前で

走れないことが悔しくて

たまらず、出場を楽しみに

している人たちに申し訳な

ことはない。

名古屋 - 金沢250キロ 全国から80人挑戦



旧国鉄バス名金線(名古屋ー金沢)沿いに桜を植え続けた車掌佐藤良二さんの遺志を受け継ぐ「2023さくら道国際ネイチャーラン」(実行委員会主催、郡上市・中日新聞社共催)が4年ぶりに開かれる。

27回目となる大会には、全国から約80人のランナーが出場。21日の開会式に続き、22日午前5時に名古屋市の名古屋城を出発。36時間以内のゴールを目指し、約250キロ離れた金沢市の兼六園を目指す。

ランナーは国道22号や156号を北上。愛知、岐阜、富山、石川の4県を夜通し走り、23日朝には最初のランナーが兼六園に着く見込み。山岳地帯を超えるコースは険しく、標高差は900㍍にも達する。コース沿道には45カ所のエイドステーションが設けられ、地元のボランティアら約700人がランナーに飲食物を提供する。通過状況は大会のホームページで速報する。

郡上市白鳥町出身の佐藤さんは、太平洋と日本海を桜の道で結ぶために約2000本の苗木を自費で植えた。佐藤さんは1977年に47歳で病死したが、大きく育った桜は今も各地で咲いている。岐阜市出身の映画監督神山征二郎さん(81)は、重い病気に倒れても夢をあきらめなかつた佐藤さんを映画「さくら」(94年公開)で描いている。(中山道雄)

2023.4.20 中日新聞 岐阜総合版

さくら道ラン 4年ぶり号砲

名古屋



名古屋城正門前から金沢市を目指してスタートするランナーたち=22日午前5時12分、名古屋市中区で

2023.4.22 北陸中日新聞 夕刊



76人のランナーが 250キロ走破に挑む

さくら道国際ネイチャーラン

名古屋城から金沢市の兼六園まで250キロを走るランナーたちが走破する「2023さくら道国際ネイチャーラン」（中日新聞社、岐阜県郡上市など共催）の開会式が21日、名古屋市中区のホテルであった（写真）。

コロナ禍の影響で、開催は4年ぶりとなる。国内外から76人が参加。22日午前5時、名古屋城をスタートし、岐阜、富山両県を北上する。36時間以内のゴールを目指す。

開会式では、ランナーを代表し、17~19年の3大会連続でトップだった高橋伸幸さん（40）=横浜市=が「（コースとなる）さくら道への思いはさまざま。長くて険しいが、優しさにあふれている。皆で頑張ろう」と決意を述べた。

大会は、太平洋側から日本海側までの道を桜のトンネルで結ぼうと植樹を続けた旧国鉄バス車掌の故・佐藤良二さん（現在の郡上市出身）の功績をたたえ、1994年から開催されている。

2023.4.22 中日スポーツ 第八面



名古屋城→兼六園 ネイチャーラン開会式

250キロ走破へ熱気十分

名古屋城→兼六園 ネイチャーラン開会式では、新型コロナウイルス禍の影響で、開催は4年ぶりとなる。国内外から76人が参加。22日午前5時、名古屋城をスタートし、岐阜、富山両県を北上する。36時間以内のゴールを目指す。

大会は、太平洋側から日本海側までの道を桜のトンネルで結ぼうと植樹を続けた旧国鉄バス車掌の故・佐藤良二さん（現在の郡上市出身）の功績をたたえ、1994年から開催されている。

2023.4.22 北陸中日新聞 第二社会面

であった（写真）。

金沢・兼六園を目指し76人熱走 さくら道国際ネイチャーラン

名古屋市中区の名古屋城を22日早朝に出発した「2023さくら道国際ネイチャーラン」（中日新聞社など共催）のランナーは、約250キロ離れた金沢市の兼六園を目指して走り続けた。4年ぶり27度目の大会には76人が出場。岐阜県郡上市のエイドステーションでは

植え、47歳で亡くなった佐藤良二さんの遺志を受け継ぐ。ランナーは36時間以内で愛知、岐阜、富山、石川の4県走破を目指し、23日早朝から夕方にかけてゴールする見込み。

名古屋市の名古屋城を22日早朝に出发した「2023さくら道国際ネイチャーラン」（岐阜県郡上市、中日新聞社など共催）のランナーは同日午後、二百五十キロ離れた金沢市の兼六園を目指して走り続けた。四年ぶり二十七回の大

4年ぶり力走 もてなし

名古屋→金沢 さくら道ラン



中学生の声援を受けて走り抜けた
22日、岐阜県郡上市大和町で

2023.4.23 中日新聞 第二社会面



名古屋市正門前から金沢市を目標としてスタートするランナーたちは、名古屋市中区

大和中の生徒らが飲食物を提供し、温かい声援ともてなしを受けたランナ

ーは笑顔で応えた。

おり、郡上市大和町のエイドステーションでは、大和中生徒や地元の人たちが飲食物を提供。温かい声援もてなしを受けたランナーは笑顔でまた走り出した。

名古屋市守山区の会社員村上泰宏さんは、「金沢市出身は『ずっと向かい風が続いている』が、この道は実際に続いている。最後

た。」と語った。金沢市守山区の会社員は笑顔でまた走り出した。「まだ頑張ります」と話し、七歳で亡くなった車掌佐藤良二さんは「同級生とも一緒にドライブを楽しめ、身の運命を受け継ぐ。ラ

ンナーは三十六時間以内で

岐阜、富山、石川、四県の走破を目指す。二十

三千本の苗木を植え、四十

ゴールする見込み。

2023.4.23 中日スポーツ 第七面

ボランティア700人が後押し

さくら道ラン

県内エイド31カ所

飲食物提供や通過確認

い。それでも、生徒たちは役割を分担して動き、ランナーを支えた。三年小沢未

233kmの「さくら道国際ネイチャーラン」(郡上町、中日新

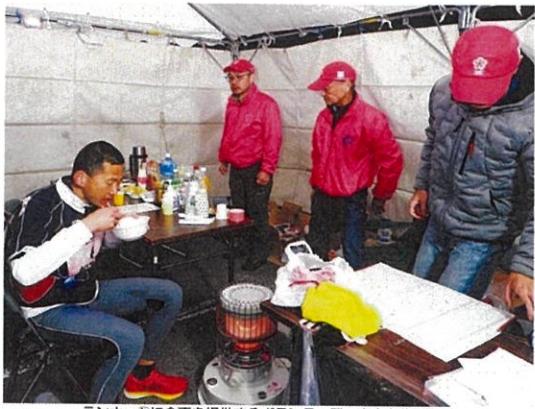
聞社主催)が十一日、四年ぶりに始まった。県内で

多くのボランティアがエイドステーションに立ち、

250キロもの長い道のりを走るランナーを後押し

た。(中山道雄)

さくら道ラン



ランナーを食事提供するボランティア=高山市庄川町丁で



険しい山道を走り続けるランナー=郡上市高鶴町で

郡上・大和中生「なかなかできない経験」

い。それでも、生徒たちは役割を分担して動き、ランナーを支えた。三年小沢未

羽さん(さは)(「こんな長い距離を走るからだすいいと思つ。なかなか走れない

経験だから、ボランティアの仕事を引き受けた。

高山市荘川町の庄川桜並木のエイドには、大会で

十回完走した自慢白置町(しろき)がいた。午後、待の気

温は七度と冷え込んだ。初めて裏方に回った日置さ

んは仲間の姿を見て、「みんなが

どうやらしい。みんなが無事に走れるよう全力でサポートしたい」と語った。

今回の大会はコロナ禍による長いブランクの影響が心配されたが、長年参加して来たボランティアの協力

チームができた。ランナーは、みんなの思いにたえて完走出来てほしい」と走っていた。

2023.4.23 中日新聞 広域岐阜版

さくら道ラン 快走250キロ

兼六園目指し 4年ぶり



中学生の声援を受けて走り続けるランナー=22日、岐阜県郡上郡大和町で

テーションでは、大和中学

校の生徒や地元の人たちが

飲食物を提供した。温かい

声援とともに楽しむ受けたランナーたちは、笑顔でまた

走り出した。

午後二時の气温は二度。金沢市出身の会員村上泰広さん(四〇)は、「ずっと向かい風が続いているが、この道は実家に続いている。最後まで頑張ります」と話

た。

岐阜、富山の山岳地帯を

越えるコースの最高地点は標高八七五㍍に達する。ランナーは日没とともにヘッドライトを点灯し、体力と気力を振り絞っていた。

大会は旧国鉄バス名金線

(名古屋金沢)沿いに約

二千本の桜の苗木を植え、

四十七歳で亡くなった車掌佐藤良(さん)郡上市白鳥町出身の遺志を受け継

ぐ。ランナーは二十三日早

朝から夕方にかけてゴール

2023.4.22 中日新聞 第二社会面

2023.4.23 北陸中日新聞 第二社会面



声援に笑顔を返し1位でゴールする早坂研さん=23日午前7時すぎ、金沢市の兼六園で

声援が力 250キロ走破

さくら道ラン、早坂さん1位

名古屋から金沢までの二
百五十キロを走破する「さく
ら道国際ネイチャーラン」

(中日新聞社、岐阜県郡上
市など共催)は二十三日午
前七時すぎ、宮城県栗原市
の医師早坂研さん(四〇)が二
十六時間で「ゴールし、初優
勝を果たした。出場した七
十六人のうち、四十五人が
完走した。(関連①面)

午前七時三分、早坂さんは金沢市の兼六園にある「佐藤桜」にタッチしてゴール。そのまま木の幹において「さくら道ラン」再挑戦を狙つた。大会前、一週間に計百六十キロを超えて走る練習を重ね、週に一回は五十キロを続けて走る課題をこなした。堂々の優勝に「練習の結果が出た」と表情を緩めた。

今大会では岐阜県郡上市で「沿道の住民が家から出てきて応援してくれたのが一番うれしかった。力になつた」と笑みをほし「また出場したい」と話した。

二位は高橋伸幸さん(横浜市泉区)、三位は杉下博一さん(札幌市北区)だった。二位とは約一時間差。百十キロ地点で先頭に出た後、順位を意識し、ほどんど休まず走り抜いた。

マラソンを始めたのは三十代から。二〇一九年に初めてさくら道に挑戦し、制限時間(三十六時間)ぎりぎりで「ゴールして以来「もう一度走りたい」と納得いく走りがした」と再挑戦を狙つていた。

大会前、一週間に計百六十キロを超えて走る練習を重ね、週に一回は五十キロを続

(戎野文菜、写真も)

2023.4.24 北陸中日新聞 第一面

桜の縁 感謝の250キロラン

名古屋—金沢 さくら道45人完走

早坂さん初V 「沿道の応援力に」

ランブラン



午前七時三分、早坂さんは金沢市の兼六園にある「佐藤桜」にタッチしてゴール。そのまま木の幹において「さくら道ラン」再挑戦を狙つた。大会前、一週間に計百六十キロを超えて走る練習を重ね、週に一回は五十キロを続けて走る課題をこなした。堂々の優勝に「練習の結果が出た」と表情を緩めた。

今大会では岐阜県郡上市で「沿道の住民が家から出てきて応援してくれたのが一番うれしかった。力になつた」と笑みをほし「また出場したい」と話した。

二位は高橋伸幸さん(横浜市泉区)、三位は杉下博一さん(札幌市北区)だった。二位とは約一時間差。百十キロ地点で先頭に出た後、順位を意識し、ほどんど休まず走り抜いた。

マラソンを始めたのは三十代から。二〇一九年に初めてさくら道に挑戦し、制限時間(三十六時間)ぎりぎりで「ゴールして以来「もう一度走りたい」と納得いく走りがした」と再挑戦を狙つていた。

大会前、一週間に計百六十キロを超えて走る練習を重ね、週に一回は五十キロを続



笑顔を見せ1位でゴールする早坂研さん=23日朝、金沢市の兼六園で

2023.4.24 中日新聞 第二社会面

早川さん(沢)大健闘4位

名古屋から金沢まで走る「さくら道国際ネイチャーラン」
(中日新聞社、岐阜県郡上市など共催)で、金沢市の会社員、早川聰さん(32)が初出場で四県勢の三人中位に輝いた。待ち望んでいた憧れの舞台、「過去の優勝者やテレビで見る選手と走れてうれしかった。まだ夢のよう」とゴール後、興奮気味に語った。(戎野文菜)



中止の年も一人で走破 待望の初舞台「夢のよう」

名古屋の3人中位に輝いた。待ち望んでいた憧れの舞台、「過去の優勝者やテレビで見る選手と走れてうれしかった。まだ夢のよう」とゴール後、興奮気味に語った。(戎野文菜)

ネイチャーラン

国内屈指の過酷なコースに出場できるのは、100キロ以上のマラソン経験が豊富で、書類選考を通過した強者のみ。制限時間36時間で愛知、岐阜、富山、石川の四県にまたがる道を夜通し走る。

早川さんは二〇二〇年の大会で出場権を得たが、コロナ禍で大会は中止に。それでも「勝手にさくら道」と自身で銘打ち、一人でコースを走破。翌年には

さくら内灘海岸まで走り切った。練習では一日半で白山の登山口と頂上を四往復したこともあるといふ。

そして今年、悲願の「本物」に出演。「二十二日午前五時ごろに名古屋城をスタートし、翌二十三日前八時三十九分、27時間33分で足取り軽く兼六園(金沢市)にゴールした。

控えめに「目標は完走だった」と言つたが、大健闘。

80キロ地点を七十人中十六位で通過し、最後まで一歩も一歩を維持した。

後半でペースを落としたが、追いつけず、「そのペースなら27時間台にけるぞ」と背中を押してくれた。

その声でタイムを意識。ゴールまでの信号機を数えて、残り時間を計算した。

一方、夕方にゴールすると聞いていた早川さんの応援団は大慌て。ランニング仲間たちは予定が狂つたよ」と朝から急いでゴールへ。妻の友美さんは「ちょっと速すぎたね」と連れ到着し苦笑いだね」と満足はしていない。「まだまだ出たい大会がある」となる高みへ挑戦は続く。

2023.4.24 北陸中日新聞 石川総合面

45人が完走

名古屋から金沢までの250キロを走破する「さくら道国際ネイチャーラン」(中日新聞社・岐阜県郡上市など共催)

は23日午前7時すぎ、宮城県栗原市の医師、早坂さんは金沢市に到着した。そのまま木の「佐藤桜」にタッチしてゴール。そのまま木の

幹におひこを付けまとい、ぎゅっと目を閉じ、腕で涙を拭つた。2位とは1時間差。120キロ地で先頭に出た後、順位を点と頂上を四往復したことあるといふ。

そこで今年、悲願の「本物」に出演。「二十二日午前五時ごろに名古屋城をスタートし、翌二十三日前八時三十九分、27時間33分で足取り軽く兼六園(金

沢市)にゴールした。

控えめに「目標は完走だった」と言つたが、大健闘。

80キロ地点を七十人中十六位で通過し、最後まで一歩も一歩を維持した。

後半でペースを落としたが、追いつけず、「そのペースなら27時間台にけるぞ」と背中を押してくれた。

その声でタイムを意識。ゴールまでの信号機を数えて、残り時間を計算した。

一方、夕方にゴールすると聞いていた早川さんの応援団は大

慌て。ランニング仲間たちは予定が狂つたよ」と朝から急いでゴールへ。妻の友美さんは「ちょっと速すぎたね」と連れ到着し苦笑いだね」と満足はしていない。「まだまだ出たい大会がある」となる高みへ挑戦は続く。

2023.4.24 中日スポーツ 第七面

45人にヒノキの完走証

さくら道ラン 郡上で閉会式



さくら道国際ネイチャーランで初優勝を果たし、完走証を受け取る早坂研さん=24日、岐阜県郡上市白鳥町で

名古屋から金沢までの250キロを走破する「さくら道国際ネイチャーラン」(中日新聞社・岐阜県郡上市など共催)の閉会式が二十四日、郡上市白鳥町であり、四日間の日程を終えた。大会長の日置敏明郡上市長が、三十六時間以内に完走したランナー四十五人にヒノキ製の完走証を手渡し、初優勝を果たした医師早坂研さん(46)は「26時間でゴールし、初優勝した。出発した76人のうち、45人が完走した。午前7時3分、早坂さんは金沢市の兼六園にあて、「佐藤桜」にタッチしてゴール。そのまま木の

前でちょっとびっくりしていい。「まだまだ出たい大会がある」となる高みへ挑戦は続く。

2023.4.25 中日新聞 第二社会面



亡き父へ感謝の完走

さくら道ラン、富山の山崎さん

ゴールの「佐藤桜」が見えると両手を広げた。二十二年で二十三の二日間で名古屋（金沢間）百五十キロを走りきる「さくら道国際ナイチャーラン」で、山崎徹さん（五〇）＝富山市堀川小泉町＝は33時間45分で、富山県内在住者としては唯一、完走した。走りきったのは、初めて出場した二〇一九年と同じ。ただ、今回フィニッシュ地点で待っていた母の美知子さん（五三）の横に、四年前にはいた父の姿はなかった。

①面参照

新型コロナウイルス感染拡大で大会が中止となる

ゴールの「佐藤桜」が見えると両手を広げた。二十二年で二十三の二日間で名古屋（金沢間）百五十キロを走りきる「さくら道国際ナイチャーラン」で、山崎徹さん（五〇）＝富山市堀川小泉町＝は33時間45分で、富山県内在住者としては唯一、完走した。走りきったのは、初めて出場した二〇一九年と同じ。ただ、今回フィニッシュ地点で待っていた母の美知子さん（五三）の横に、四年前にはいた父の姿はな

かった。

（郷司駿成）

富山県内在住者で唯一ゴールした山崎徹さんと母の美知子さん＝23日、金沢市の兼六園で

普段は県内の病院で小児外科医として勤務する。大会に向けて、通勤時間を練習に充ててきた。勤務先と自宅の間を寄り道しながら距離を稼ぎ、一日十五キロほど走った。一当直の時は練習できないけど、ほぼ毎日やつてきた」と話す。

迎えた本番。気温が一度という春先の夜の寒さにも耐え、生まれ育った金沢市に入つてからもう一踏ん張りした。前回より一時間半以上も記録を更新し、「元気孕育してくれてありがとう」。完走につながらず、夫婦体。父に感謝の意を口にした。

2023.4.24 北陸中日新聞 第二社会面

ヒノキ製完走証45人に

名古屋から金沢まで二百五十キロを走破する「さくら道国際ナイチャーラン」（中日新聞社・岐阜県郡上市など共催）の閉会式が二十四日、郡上市白鳥町であり、四日間の日程を終えた。

大会長の日置敏明郡上市長が、三十六時間以内に完走したランナー四十五人にヒノキ製の完走証を手渡した。初優勝を果たした医師早坂研さん（四〇）＝宮城県栗原市＝は、「コロナ禍で中止が続いた大会の再開をみんなが楽しみにしていた。関

岐阜・郡上 さくら道ラン閉会式

係の方々に心から感謝したい」とあいさつした。

四年ぶり十七回目の大会には七十人が参加したが、完走率は六割にとどまり、八割を超えた前回を大きく下回った。

ナイチャーランは旧国鉄バス名金線（名古屋一金沢沿い）一千本の桜を植えた車掌佐藤良二さん（白鳥町出身）の遺志を受け継ぐ。愛知、岐阜、富山、石川の四県にまたがるコースでは、約七百人のボランティアがランナーを支えた。

2023.4.25 北陸中日新聞 第二社会面

さくら道ラン 県内の6人出場



県内から大会に参加したランナーたち=郡上市白鳥町で

走りきった250キロ「最高の気分」

郡上市白鳥町で二十四日開かれた「さくら道国際ネイチャーラン」（郡上市、中日新聞社など共催）の閉会式には県内のランナーも出席し、名古屋から金沢まで250キロの道のりに挑んだレースを振り返った。

（中山道雄）

県勢トップは岐阜の内田さん

四年ぶりの大会には、全国から七十六人が参加。県内は男女六人が出場し、うち三人が36時間以内の完走を果たした。県勢トップでゴールした岐阜市の会員内田優子さんは「体を飛ばされそうな強い風に苦しんだが、大会で走ることががとにかくうれしかった。今は最高の気分です」と満足そう。日置敏明市長からヒノキ製の完走証を受け取ると、仲間の祝福に笑顔でこだえた。

岐阜市の公務員高橋知克八位に入った。過去最高の自己記録を出した内田さんは「体を飛ばされそうな強

い風に苦しんだが、大会で走ることががとにかくうれしかった。今は最高の気分で練習不足を実感した。「時は完走できないかと思つたが、最後まであきらめずに走った。体力は落ちていても、気持ちは前に前に向かっていた」

コロナ禍は全国のマラソン大会などを中止に追い込まれ、ランナーの晴れ舞台となってしまった。七百人のボランティアを集めて復活したネイチャーランは、多くの人抜いたから、金沢の兼六園が見えた時には本当に感動した」と話した。

三十六位でゴールした名務原市の会員遠藤賢児さんは、「久しぶりの大会で練習不足を実感した。『一時は完走できないかと思つたが、最後まであきらめずに走った。体力は落ちていても、気持ちは前に前に向かっていた』」と語りかけた。各地でエイドを開いてきた内田さんは「皆さんと会えるのが毎年楽しみにしていました。また大和町の国道を走つたら、手をたたいてランナーを応援していくおばあがいた」と想い出します。おばあがいたことを思い出せるのを母は毎年楽しみにしていました。

岐阜の内田優子さんは「母は、毎年楽しみにしていました。また大和町の国道を走つたら、手をたたいてランナーを応援していくおばあがいた」と想い出します。おばあがいたことを思い出せるのを母は毎年楽しみにしていました。

（中山道雄撮影）

2023.4.25 中日新聞 岐阜総合面

45人にヒノキの完走証



完走証を手にして記念撮影に臨むランナーたち=岐阜県郡上市白鳥町で（中山道雄撮影）

郡上市で閉会式
さくら道国際ネイチャーラン
50キロを走破する「さくら道国際ネイチャーラン」（中日新聞社、岐阜県郡上市合共催）の閉会式が24日、郡上市白鳥町であり、4日間の日程を終えた。大会の日程は36時間以内に完走したランナー45人にヒノキ製の完走証を手渡した。初優勝者だった医師坂井さん（46）は、「口子禍でまことに走ったランナー45人にヒノキ製の完走証を手渡す」と話していた。

（宮城

県）

2023.4.25 中日スポーツ 第七面

の桜を植えた車掌佐藤良二さん（白鳥町出身）の遺志を受け継ぐ。愛知、岐阜、富山、石川の4県にまたがるコースでは約700人のボランティアがランナーを支え

250キロ力走 700人が支えた



エイドステーションでランナーをもてなす中学生たち=郡上市大和町で



4年ぶりさくら道ネイチャーラン

名古屋市の名古屋城から金沢市の兼六園まで250キロ。途方もない距離を徹夜で走る「さくら道国際ネイチャーラン」（郡上市・中日新聞社共催）が4年ぶりに開かれ、七十六人中、四十五人が36時間以内の完走を果たした。過酷なコースに挑むランナーを支えたのは、七百人のボランティア。愛知、岐阜、富山、石川の四県を縦断する道で、今回も人と人との温かい触れ合いがあった。

（中山道雄）

大和中生らも飲食物提供



●声援を受けて走るランナー。思わず笑顔になる
同市大和町で ●閉会式の記念撮影に臨むランナーたち。佐藤さんの写真を閉んだ同市白鳥町で



午後三時。郡上市大和町のエイドステーションには、大和中学校の生徒有志八十人がいた。ランナーが来ると大きな声で応援し、飲食物を提供する。ランナーの笑顔と「ありがとう」という言葉。それだけが生徒の報酬だった。

四十五カ所のエイドには、地元の人たちや大会組織者らが詰めた。日が沈むと、岐阜から富山に向かう山道は一気に冷え込んだ。

ヘッドライトを点灯しながら走り出す。最後のランナーは二十三日目、兼六園にさがり生まれた郡上市白鳥町で、岐阜の人たちは、ゴールした。エイドの人たまた、長いレースその後もまた、長いレースと通し向き合っていたのだ。

午後八時。スタートから最大の課題だった。一時は濃霧を去っていった。

う。ランナーは熱いどんどん食べて元気を取り戻す。う。

閉会式は二十四日、佐藤さんは生まれた郡上市白鳥町で、通じた長いレースと最後に集まつた。「また来年会いましょう！」全

う。

年会が集まつた。大会を始めた結果、新たなボランティアも多数参加したとい

う。

は「エイドがうまく回るためさう」と話す。大会を要する力がある。これで縮小した大会が忘れられて人集

めざさに嵌（は）まる考

は、大会が旧国鉄バス名金線（名古屋→金沢）沿いに桜を植え続けた車掌佐藤良一さんの遺志を継ぐことに触れ、「ランナーが太平洋と日本海を結ぶからこそ意味がある。ここに縮小した

裏方に不運な自営業日暮和徳さん（金沢）=郡上市白鳥町

は、大会を名古屋市開催で10キロに短縮する案も出た

が、関係者の熱意で完全復活を実現した。

郡上市の日置敏明市長は、大会が旧国鉄バス名金線（名古屋→金沢）沿いに桜を植え続けた車掌佐藤良一さんの遺志を継ぐことに触れ、「ランナーが太平洋と日本海を結ぶからこそ意味がある。ここに縮小した裏方に不運な自営業日暮和徳さん（金沢）=郡上市白鳥町

は、大会が忘れられて人集

めざさに嵌（は）まる考

えた」と話す。大会を要する力がある。これで縮小した

大会を名古屋市開催で10キロに短縮する案も出た

が、関係者の熱意で完全復活を実現した。

（中山道雄）

2023.5.7 中日新聞 中濃版

白鳥の図書館で写真など企画展



4年ぶりに開かれた「さくら道国際ネイチャーラン」を振り返る企画展=郡上市図書館本館で…
くら道国際ネイチャーラン（郡上市・中日新聞社共催）が、郡上市白鳥町の市図書館本館で開かれている。

ランナー、運営に関わった人々捉える

大会には全国から七十
三人が参加した。ランナー
は四月二十二日早朝、名
古屋市の名古屋城を出発。
二百五十キロ離れた金沢市
の兼六園を目指して走り
続け、四十五人が三十六
時間以内の完走を果たし
た。

企画展ではエイドステー
ションで働く人たちや、徹
夜で走るランナーの写真を
中心に、本紙の記事も含め
て約六十点を展示してい
る。大会には七百人のボ
ランティアが参加し、エイ
ドの運営やコースの安全確
保に活躍した。展示を見る
と、多くの人たちが一体と
なり、四県にまたがる大会
を成功させたことが分か
る。

大会は旧国鉄バス名金線
沿いに千本の桜を植えた
車掌佐藤良一さん（白鳥町
出身）の遺志を受け継ぐ。
企画展は二十五日まで。

さくら道ラン 感動再び

2023.5.11 中日新聞 中濃総合版